

神経心理検査  
(Neuropsychiatric Inventory-Questionnaire)  
の導入及び実施  
第 1.0 版

- 1. 目的
- 本手順書は、Neuropsychiatric Inventory-Questionnaire（以下、NPI-Q）を施行するに当たり、本検査が適切に施行されるよう、その標準的な手順を示すものである。
  
- 2. 適用範囲
- 認知症で行動・心理症状 Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia（以下、BPSD）を有する者（以下、対象者）の介護者（以下、情報提供者）。
  
- 3. NPI-Q の概要
- (1)背景
- NPI-Q は対象者の精神症状の重症度と情報提供者の負担度を評価する事を目的として 2000 年に開発された質問紙検査法である。
- NPI-Q の前身である Neuropsychiatric Inventory（以下、NPI）は、認知症患者（以下、対象者）における BPSD に関する情報を得ることを目的として 1994 年に Cummings らによって開発された。
  
- (2)概要
- NPI-Q は「妄想」、「幻覚」、「興奮」、「うつ」、「不安」、「多幸」、「無関心」、「脱抑制」、「易怒性」、「異常行動」、「夜間行動」、「食行動」の 12 項目の BPSD に対して、日頃、情報提供者が介護を行っている対象者について、情報提供者自身が記入回答を行うアンケート形式の質問紙検査である。
- NPI-Q の 12 の下位項目には、主要な症状を反映している検査の質問が用意されている。情報提供者は各項目の質問に対し、最初に「なし」か「適応なし」かの回答を行う。もし、質問の内容が「なし」もしくは「適応なし」であれば、次の質問に進み、もし、「あり」であれば、該当する症状の過去 1 ヶ月間の重症度を 1-3 の 3 段階で、その症状の情報提供者への影響度（負担度）を 0 - 5 の 6 段階でそれぞれ評価する。NPI-Q には各症状における重症度及び負担度の評価、各項目の合計である総合重症度及び負担度で評価を行う検査である。
  
- 4. 導入実施手順
- (1)対象
- NPI-Q は可能な限り日常的に対象者と一緒に暮らしている人など、対象者の情報に精通した情報提供者に実施することを基本とする。情報に精通した人がいない場合、NPI-Q を実施することは極めて難しい。
  
- (2) 施行時間
- 5 分以内。
  
- (3)実施と採点
- 別紙 1、2 を参照する。

・ 5. 作成・改訂の履歴

版数	日付	作成/改訂	改訂理由	作成/改訂者

\*別紙をご覧になりたい方は認知症臨床研究・治験ネットワーク事務局 (Email:crndinfo@ncgg.go.jp) までご連絡下さい。